

[感謝]

私の神よ 私は感謝します
このように地を明るくして
光と喜びと美しさで
満たして下さったことを
地には栄光に輝くもの
気高く正しいものが 多くあります

私はまた あなたに感謝します
あなたの喜びで
あふれさせて下さったことを
高貴な思想や 高貴な行為が
私たちの回りにも満ち満ちています
どんな地の暗い所でも
いくらかの愛は見出されます

主よ 私はあなたに感謝します
まだ御手のうちに素晴らしいものがあることを
私たちはすでに多くを受けました
でも 余ることも 飽くこともありません
私は切に慕うのです
まだ知らない さらに満ち足れる平安を

主よ 私はあなたに感謝します
この世で 私たちのたましいが
豊かに祝福されていることを
しかし 完全な休息を見出そうとしても
この地上では 与えられることも
見出すことも 決してないのです
かなたの国で イエスの御胸にすぎるときまで
アダレイド・プロクター

■喜びについての訓練 (1/2)

私は……豊かさの中にいる道も知っています。(ピリピ 4:12)

ある人々は人生におけるありとあらゆるよいものに恵まれているのに、私たちはその反対であるように思われる。彼らには豊かな資産があり、金銭、衣服、自動車、友人、安楽、教育などすべて望みどおりにすることができるのに、私たちはどうかと言え、全く何の蓄えもなく、汗水たらしてこつこつと働いて、その日その日を送っている。彼らは健康にも恵まれ、活力に満ち、どんなことにも耐えうる力を持ち、運動競技の才能に恵まれ、そのうえ容姿も美しい。ところが私たちは、疲れ果てた足を引きずり、痛める心を抱くばかりである。彼らには繁栄、優越、安定、地位、友人、愛顧、愛情、家族、あたたかい家庭がある。詩篇記者のことばを借りるなら、「心の願いにまさりて物を得」ている(詩篇 73:7 文語訳)。

高ぶりはたましいの大敵である。聖書はこのことについて多く語っている。「高ぶりが来れば、恥もまた来る」(箴言 11:2)。「高ぶりは、ただ争いを生じ」る(13:10)。「高ぶりは破滅に先立ち、心の高慢は倒れに先立つ」(16:18)。「自分を知恵のある者と思っている人を見ただろう。彼よりも、愚かな者のほうが、まだ望みがある」(26:12)。「人の高ぶりはその人を低くし……」(29:23)。さらにこうあ

る。「神は高ぶる者に敵対し、へりくだる者に恵みを与えられる……。ですから、あなたがたは、神の力強い御手の下にへりくだりなさい」（Ⅰペテロ 5:5, 6）。

ほんとうの喜びについての訓練を受けることにより、高ぶりは低くされ、霊は喜びに満たされ、あふれる心はさらに豊かな美しいものとされ、物惜しみする心は矯正される。うぬぼれや詭弁を好む心は美しい心に変えられて、「何事かを自分のしたことと考える資格が私たち自身にあるというのではありません。私たちの資格は神からのものです」と言うようになる（Ⅱコリント 3:5）。

モーセの生涯は、この喜びについての訓練のすぐれた実例である。彼は人々が望むようなものをすべて得ていたにもかかわらず、神から与えられた価値ある仕事のために、すべてを捨てた。幼いときから美しい容貌を備えていたモーセは、当然そのことについて誇ることもできた（モーセの生まれたとき、両親は、彼の「美しいのを見た」〔ヘブル 11:23〕。「彼は神の目にかなった、かわいらしい子」であった〔使徒 7:20〕。「そのかわいいのを見て……」〔出エジプト 2:2〕）。「見かけの価値」と「真の価値」とはしばしば対照される。そのことは、商品について、あるいは人間の性質についてよく論じられる。ある人は美しい容姿を鼻にかけるため、たましいにしわを寄せ、ついには醜い心の持ち主となってしまう。ほんとうに美しい顔は、美しい心のあるところにある。ところが、心は顔と似ても似つかぬ醜悪なものであるのに、それにふさわしくない権力を振り回す人がよくある。しかし、モーセは他の「美しい」人々とは異なり、卑しめられることに甘んじ、最も心の低い者と称されるほど謙遜な人物になった。

モーセはまた、その地位を誇ってもよい立場にあった。彼は「パロの娘の子」と認められ、王室に属する高貴な人であった（ヘブル 11:24、出エジプト 2:10、使徒 7:21）。養子というものは、実子にはできないような軽蔑すべき態度をとることがよくある。モーセが下層階級の人々に重荷を負わせて得意になっていたとしても、それほど不思議とも思われなかったであろう。小心な者があれほどの優越した地位に立たされると、そういうことがよくあるからである。ところが、モーセはその反対であった。彼は「同胞のところへ出て行き、その苦役を見た」（出エジプト 2:11）。地位も、彼を高慢にすることはできなかったのである。